

地域連携だより

Face to Face

第46号

役職等はすべて取材日時点のものです。

- ▶ 「地域連携だより Face to Face」は、紙面版「顔の見える会議」をコンセプトとした、主に医療職・介護関係職などの、ケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指しています。
- ▶ 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する皆様の取組を広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

R4 釜石市包括的支援の仕組みづくり事業 みんなで創る地域会議事業

令和4年度かまいし地域づくりフォーラム

10月22日、釜石情報交流センターにおいて、「地域のつながり」を処方することで健康課題を解決しようとする社会的処方を契機とした住民の社会参加と地域づくりを推進していくためのフォーラムが開催され、民生児童委員の皆さんをはじめ多くの地域住民の方々に参加されました。

基調講演では、釜石市地域包括ケア推進アドバイザー（東海大学建築都市学部建築学科准教授）の後藤純氏が「コミュニティデザイン（地域づくり）と社会的処方」と題し、地域包括ケアと社会的処方についてお話しくださり、これからの地域づくりのヒントをいただきました。

～コミュニティデザイン（地域づくり）と社会的処方～

—基調講演資料より—

○地域包括ケアと社会的処方

- ・かかりつけ医と介護支援専門員、多職種のさらなる連携
- ・重層的支援、社会的処方など使える資源を最大限活用
- ・地域単位での包括的な支援（医療、社会参加、生活習慣）

○フレイル予防（健康づくり）

- ・当事者の自己実現とそのため地域資源
- ・フレイル予防（健康づくり）→処方薬を自分でつくる
- ・小さな拠点に、シニアや女性による起業・サブカルチャー（地域資源）を埋めていく
- ・ワクワク・ドキドキ、シニア女性向けのエンターテインメント

○コミュニティ（地域）デザインとこれからの地域像

- ・従来型のにぎわいの創出（若者が戻ってくる）
- ・集まって暮らす人の数や密度が減っても幸福に暮らせる
- ・個性的な住民一人ひとりを資源としてみなし、内需を拡大していく

○リンクワーカーやコーディネーターの役割

講師の後藤先生



後半は、市内3地区（甲子・鶴住居・平田）の生活応援センターから、地域の方々との協働で取り組む事例の発表があり、参加者からは「地域住民が参加しやすい地域づくりに工夫していきたい」、「若い方から高齢の方まで皆が、笑顔で暮らせるまちづくりということを考えて、若者のニーズを積極的に取り入れる仕組みが必要。」などの意見がありました。

3地区の取組事例に対して後藤先生からは、釜石市では住民の皆さんの取組によって社会的処方の下地はほぼできていると思う。これを生かして趣味の起業など「自分のため」の取組が地域の拠点と一緒にになると地域づくりがまた一段と進む。若い人も含めて毎日がワクワク・ドキドキすることを取り入れることが大事だと思う。と講評がありました。



令和4年度釜石市権利擁護研修会～「人生会議」から考える権利擁護～

12月20日、釜石PITでハイブリッド形式による権利擁護研修会が開催され、介護支援専門員のほか医療・介護・福祉等のケアの担い手となる関係職員の参加がありました。

— 研修カリキュラム —

1. 講演：アドバンス・ケア・プランニング
～最期までその人らしく生きるために私達ができること～
講師：県立釜石病院 緩和ケア認定看護師 西明子氏
2. 講演：ACP「人生会議」とDNAR※の関連性について
講師：釜石大槌地区行政事務組合消防本部 消防課長 菊池俊氏



もしバナゲーム」の実践講習が行われました。もしも、突然余命半年と言われたら…。これをテーマに参集した多職種が共に考える機会となりました。

ACP＝アドバンス・ケア・プランニング（愛称：人生会議）は、意思決定能力が低下する場合に備えて、終末期を含めた今後の医療や介護等について、最後まで自分が思い描く生活を送れるよう、前もって話し合う事や、本人に代わって意思決定をする人を決めておくプロセスです。本人が「蘇生措置の拒否」を希望しても、意思が共有されずに救急搬送されるという課題もあります。ACPは今後の課題となっています。

演習では、自分にとって大事なことは何なのかを考える「もしバナゲーム」の実践講習が行われました。

※DNAR…Do Not Attempt Resuscitation 蘇生処置の拒否

生涯学習まちづくり出前講座 ～楽しく学ぼう！ 薬剤師さんのお薬教室～

釜石薬剤師会は、令和3年度から地域包括ケア推進本部事務局との連携による出前講座を実施しています。

令和4年度の実績では、4月に甲子公民館事業「ゆう遊講座」と、8月には平田地区センター会議事業「つながるカフェ」から申込みがあり実施されました。

講座は、地域包括ケアシステムについての説明のほか、釜石薬剤師会の中田副会長による講演で構成されており、どちらの会場でも住民の皆さんは熱心に聞き入っていました。



市生涯学習
出前講座は
こちらから
↓↓↓



岩手県栄養士会による 在宅栄養ステップアップ研修会

10月7日、岩手県食形態分類標準化推進委員会主催（運営：岩手県栄養士会）の「在宅栄養ステップアップ研修会」が開催されました。

食生活改善推進員・介護支援専門員・栄養士などが参集し、ミキサー粥と粥ゼリーの嚥下について、動画を用いて説明があり、高齢者が住み慣れた地域や家庭で自分らしく幸せに過ごせるよう、安心してスムーズな嚥下食の試食等により「咀嚼やくや嚥下機能に合わせた食形態」「家庭での嚥下調整食の作り方」などを学び、理解を深める機会となりました。



令和4年度岩手県リハ専門職・介護予防従事者多職種連携研修会に登壇しました。

12月3日、岩手県が主催する多職種連携研修会（運営：いきいき岩手支援財団）に、釜石市地域包括ケア推進本部の小田島事務局長と釜石リハビリテーション療法士会（通称：釜石リハ士会）の菅原事務局長

が登壇し、「釜石市の地域包括ケア連携～在宅医療連携拠点チームかまいしと各主体の取組～」と題して、行政の立場とリハ職の立場から釜石市の取組紹介が行われました。

小田島事務局長から、職能団体などへの課題解決支援を行う「チームかまいしの連携手法」や具体的な取組事例の紹介があった後、菅原事務局長からは、釜石リハ士会（全国初の地域リハ士会）の設立経緯と効果の説明のほか、薬剤師×リハ職連携の必要性を含めた多職種連携によるケアの担い手としての成功事例の紹介などがありました。

研修会はオンライン形式で開催され、県内のリハ職と市町村職員が参加しました。

チームかまいしの「一次連携」による設立支援

◆釜石医師会の協力で釜石市が平成24年7月に設置した、「在宅医療連携拠点チームかまいし」の問いかけ



在宅医療連携拠点
チームかまいしの
基本方針

職能団体単位の
連携構築
(公平・中立)

《釜石リハ士会 菅原事務局長の資料より》

いきいき100歳体操交流会

釜石市では通いの場の充実を目指し、平成29年度から「いきいき100歳体操（地域づくりによる介護予防事業）」に取り組んでいます。

10月7日、釜石市民体育館において、市内で活動している45団体のうち22団体97人の方々に参加し「いきいき100歳体操交流会」が開催されました。

交流会では、市保健師から「100歳体操の現状と効果について」の情報提供後、釜石リハ士会副会長の千葉悟氏から「効果的な運動方法」について講話をいただき、釜石体育協会の体育指導員の佐久間定樹氏による実技「軽体操・脳トレ」を参加者の皆さんと一緒に行いました。

参加者アンケートでは9割が今後の活動の参考になったと回答。また、「楽しかった。100歳体操を続けたい。」「100歳体操交流会を参考に輪を広げていきたい。」などの感想があり、参加者のモチベーションの維持・向上が図られた交流会でした。



釜石医師会からのお願い

◇◇介護保険「主治医意見書」作成事前アンケートの改訂について◇◇

釜石医師会では、11月14日に開催した介護在宅診療部会（部会長：寺田尚弘理事）において、「主治医意見書作成事前アンケート」の改訂を行いましたのでお知らせいたします。

当会では、主治医意見書の作成を円滑に行うために、ご家族や支援される方に「主治医意見書作成事前アンケート」の記入をお願いしているところですが、特にも、質問No.11～13については、記入漏れや情報量が少ないと意見書の作成が難しいため、できるだけ多くの情報をご記入いただきますよう、改めて、ご協力の程、お願いいたします。



【釜石医師会事務局 Tel 0193-23-7875】

釜石・大槌
地域の

主任介護支援専門員の皆さんの「顔と名前と心意気#4」をご紹介します！

主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー/主任CM）は、一定の実務経験や「主任介護支援専門員研修」の受講等が要件となる、介護支援専門員の上級資格です。介護に関わる多様なサービス（医療、福祉、行政等）の連携ネットワークの向上、ケアマネジャーの育成・指導、ケアプラン作成支援、地域包括ケアを進める実践者としての活動、事例検討会開催などの地域課題への取組等の役割が期待されています。

あいぜんの里指定居宅介護
支援事業所CM歴：18年
主任CM歴：5年

高野 加奈子 さん

+ 主任CMとしてのモットー等

丁寧に向かい合い、相手を理解することを大事にしています。皆さんに安心感を与えられるケアマネジャーでありたいです。

+ 多職種の皆さんへ一言

皆様の声掛けや励ましにいつも助けられ、感謝しています。

あいぜんの里指定居宅介護
支援事業所CM歴：8年
主任CM歴：2年

成清 兼一 さん

+ 地域課題の解決の取組等

もっと経験を積んで地域の困りごとを確実に解決できる為のお役に立ちたいと思います。

+ 多職種の皆さんへ一言

一介護支援専門員として、地域の皆様に貢献できるよう一緒に頑張りたいと思います。

いきいき指定居宅介護
支援センターCM歴：20年
主任CM歴：12年

神田 由香利 さん

+ 主任CMとしてのモットー等

視野を広げ、傾聴すること、洞察力を身につけることを心掛けています。

+ 多職種の皆さんへ一言

多職種連携が上手くいければ患者様・利用者様・ご家族にとってメリットは大きいと思います。皆様今後ともよろしくお願いたします。

いきいき指定居宅介護
支援センターCM歴：12年
主任CM歴：7年

佐々木 秀子 さん

+ 主任CMとしてのモットー等

専門的な知識を身に付け、地域の方々から信頼されるケアマネになりたいと思います。

+ 多職種の皆さんへ一言

ケアマネ自身では解決できないことも多くありますので、多職種との連携を深め課題解決に向けて取り組みたいと思います。

いきいき指定唐丹居宅
介護支援センターCM歴：20年
主任CM歴：15年

高橋 登久子 さん

+ 主任CMとしてのモットー等

利用者やご家族の思いに沿いながら、過ごしやすい環境やサービスの提供を心掛けています。

+ 多職種との連携について

各病院に相談窓口がある事がありがたく、また、過剰投与の解決で薬剤師さんとの関りに非常に助けられています。これからも宜しくお願いします。

いきいき指定唐丹居宅
介護支援センターCM歴：13年
主任CM歴：7年

佐々木 千寿子 さん

+ 主任CMとしてのモットー等

利用者や家族が安心して暮らせるように、多職種とつなぐ役割をしっかりと果たしていきたいと思っています。

+ 主任CMとして注力したいこと

地域に溶け込み、地域が活性化し、課題の解消に向けたトータルな対応力を持ちたいです。



はまゆり在宅介護支援センター

CM歴：19年
主任CM歴：2か月

村上 真理子 さん

+ 主任CMとしてのモットー等

経験豊富な居宅ケアマネジャーに囲まれ、刺激を受けながら、日々勉強しております。

+ 主任CMとして注力したいこと

地域の人達の力が、利用者の方の生き生きにつながっていることを実感しながら地域連携に関わり、様々な経験を積み重ねて行きたいです。



釜石市地域包括支援センター

CM歴：6年
主任CM歴：2か月

佐々木 規子 さん

+ 主任CMとしてのモットー

「この人に相談してよかった。」と思ってもらえるようなケアマネになりたいです。

+ 主任CMとして注力したいこと

関係機関と協力、連携しながら皆さんと一緒に住みやすい地域にしていきたいですので、よろしくお願いたします。



【発行】在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号 釜石市地域包括ケア推進本部事務局

TEL 0193-55-4536 FAX 0193-22-6375 E-mail kea@city.kamaishi.iwate.jp

【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/>【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/>

QRコード読み取りでスマホからアクセスできます→

ホームページ



Facebook

